

北関東信越ブロック会議（平成30年8月28・29日 新潟県：イタリア軒）

参加者約200名。大会テーマは「職業実践教育の充実と教育の質の向上を目指して」。

全体会では、開会のことば、国歌斉唱に続き、渡辺敏彦新潟県会長が幹事県挨拶を、八文字典昭北関東信越ブロック長・茨城県会長が主催者挨拶を述べた。次いで来賓祝辞では、花角英世新潟県知事（代読）、篠田昭新潟市長の祝辞に続き、6月の役員改選で全専各連の新会長となった福田益和会長のあいさつとなり、今後、対応が求められる重点課題にふれ、特に公平な高等教育の無償化・負担軽減の推進、高大接続改革、留学生の受入および実践的かつ高度な職業能力を有する専門学校生の在留資格の拡大などについて言及した。その後、来賓紹介、祝電披露を行い全体会終了。

小憩後、全体会議に入った。はじめに文部科学省専修学校教育振興室の説明となり、廣野宏正室長が、高等教育の無償化・負担軽減の推進、平成30年度文科省専修学校関係予算を中心に、国の閣議決定を踏まえた専修学校関係施策等について解説。文科省からの説明終了後、赤池誠章参議院議員からの国政報告が行われ、一旦休憩。続いて、基調講演となり、キャスターで事業創造大学院大学客員教授の、伊藤聡子氏を講師として「地域経済の活性化と教育の役割」をテーマに基調講演が行われ、1日目の全体会議は終了、その後、懇親会が行われ初日の日程は終了した。

大会2日目の全体会では、はじめに各県行政報告が行われた後、全専各連事務局からは高等教育の無償化の制度化に向けたスケジュールや今後の展望を中心に、専修学校を取り巻く最近の情勢について報告が行われた。

引き続き大会決議（案）が全体会議に提案され、原案どおり承認された。次いで渡辺新潟県会長が次年度開催県を長野県とする旨提案し、異議なく決定された後、小林勝彦長野県会長が次年度開催県挨拶を述べた。最後に閉会のことばが述べられ、全ての会議日程を終了した。

なお、採択された大会決議は次のとおりである。

【大会決議】

わが国は少子高齢化が進み、産業の高度化やグローバル化の進展の中で、職業はより専門分化し、職業人として専門的な知識・技能が一層求められるようになっている。また、人手不足の問題も深刻化しつつあるところであり、このような産業構造の変化や就業構造の変化に対応するための職業教育を充実していくことは、ますます重要になるものと考えられる。

専修学校各種学校は、これまでも多様な分野において、産業界等のニーズに即応し、職業に直結する教育を行うことで、各地域で活躍するプロフェッショナル人材を養成し、地域社会の発展に大きく貢献してきた。人生100年時代、人づくり革命や社会人の学びなおしなどで、専修学校各種学校には今後も一層の役割が期待されている。

本ブロック大会では、専修学校各種学校振興のために、職業実践教育の更なる充実と教育の質の向上、地域社会に対して情報公開していくことの重要性を確認した。

よって、国および県等の行政機関に対して、これまでの各種支援等の継続拡大を基調に、下記事項を強く要望し、あわせて職業教育機関・生涯学習機関である会員校自らが、継続的・主体的な情報発信を行うことを決議する。

記

1. 職業実践専門課程の理解・認知度向上・発展のため、質保証・向上に向けた取り組みの推進と一層の支援の充実を求める。
2. 高等教育の無償化について、異なる学校種の学生間での公平性が図られる仕組みとなることを求める。
3. リカレント教育の充実のため、社会人のニーズに対応した短期プログラムの拡充と経済的負担の軽減など受講意欲を高める具体的方策の充実を求める。

以上、決議する。

平成 30 年 8 月 29 日

全国専修学校各種学校総連合会
第 49 回北関東信越ブロック大会